

## 【家庭と学校】

〈地域〉の中に〈家庭という地域〉と〈学校という地域〉がある。子どもたちはこの二つの地域を日々〈移住〉して生活している。

このようにとらえると、「地域に根ざす」教育は、家庭づくりと学校づくりと地域づくりの統一である。

学校や家庭に〈居場所や出番〉などの必要を感じない子どもたちが〈地域〉に根ざせるわけがない。佐世保高一同級生殺害事件など、最近の痛ましい出来事を考えると、特に〈家庭〉をこの広く立体的な視野の中でとらえることが重要だと思われる。

デュイイの新教育は、「学校にあそび・仕事（オキュペーション）を導入すること」であった。デュイイが批判した伝統的の学校とは、知識暗記とつけの学校で、そこにはオキュペーションがない。デュイイの学校で、金工、木工、裁縫、料理などがオキュペーションとして取り組まれたが、これらは元々家庭の仕事だった。数世代前の開拓民

# 生活教育 キーワード

の家庭では、服もろろそくも家族で〈大地から〉くつていた。ここに子どもたちが〈必要〉を実感し、この中で〈学び〉が展開していることが注目された。家庭に精神を置き忘れて学校に行くのではなく、学校で学んだことが家庭で話題になり、また応用される。その成果や新しい疑問をわくわくしながら学校へ持つていく。そういう往復が期待された。こう考えると、丸木政臣が提案した家庭教育論は、「家庭にもあそび・仕事（オキュペーション）を導入すること」にまとめられよう。家庭でどうすればいいかは、和光小学校の実践をモデルとして、親子の会話を通して示されていた。家庭でオキュペーションができるためには、労働時間を短縮し、親の生活が文化的になるような社会的施策が必要である。

（研究部・加藤聡一）

### ＜参考文献＞

- ①デュイイ（宮原誠一訳）『学校と社会』（岩波文庫）岩波書店、一九五七年（原著一九九九年）。二〇、二三、八六―八七頁。
- ②『丸木政臣教育著作選集 第二巻子育て・家庭教育論』澤田出版、二〇〇七年。